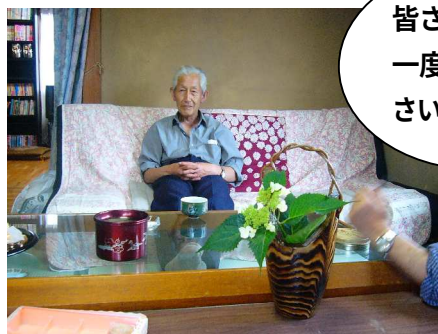


総ぐるみ」新聞

集いの場 日限山荘がオープン



皆さんも、ぜひ
一度、来てくだ
さいね。



室内はこんな感じ!!
日限山荘の室内には、皆さんのご好意による家具調度が備わり、こんな感じになりました。
勉強会(?)として、近く「老人ホームを考える会」を開催する予定です。ご興味ある方は増澤理事にお尋ね下さい。(増澤宅 TEL842-9084)

このたび、桑田さん(日限山4の7の1)のご好意で、同家の二階を、NPO総ぐるみの集いの場としてお借りすることになりました。

早速、写真のように『日限山荘(ひぎりさんそう)』と名前が付きました。どうやって運営したらよいのか、お手伝いをどなたにお願いしたらよいのか、まだ良いアイデアが思いつきません。

当面は、おしゃべりを楽しんだり、お茶を飲んだり、碁や将棋を楽しむ「憩いの場」として、「学びの場」などとして活用するつもりです。

現在、オープンする日は不定期ですが、いつかは「ミニ・デイサービス」のようなものになりたいと考えています。皆さんの絵画を飾りたいのですが、お貸し下さい。

NPO総ぐるみ福祉の会 事務所は日限山4・44・23の宮崎宅です。入会や活動等については、宮崎浩子 TEL844-7477、増澤喜一郎 TEL842-9084、笠原松次 TEL8456263、菅沼永子 TEL844-9193、米川満寿子 TEL841-9433、菊地幸子 TEL841-4882に。日限山荘でも受け付けています。

「港南区福祉活動拠点」で講演会を開催

5月23日、港南区ご自慢の区社協の施設(下の写真)を使って



NPO総ぐるみ福祉の会は、この建物の3階の、港南区社会福祉協議会の管理する、多目的研修室、交流室、メールボックスとロッカーも使用できる登録団体です。

◎当日の講演会のテーマは「ボランティアについて皆で考えよう」、講師は松崎徳親先生。その他、余興として、腹話術を宇根岡 操様と上村綾子様、手品を若山君代様にお楽しみしました。なお、3時にお配りしたぞよかせの家製「コーヒーと菓子パン」が好評でした。

介護保険を使って行った 住宅改修の実例

浴室の扉(折戸に交換)と手すり付け

浴室扉交換工事 94,460

浴室手すり取り付け工事
70,510

現場管理費 4,950

諸経費 13,590

値引き ▲3,510

小計 180,000

消費税 9,000

合計 189,000

自己負担金 18,900

義母の想い出」と日限山荘

大橋 綾子

早いもので、義母が亡くなってから、もうじき一周忌を迎えようとしています。

腎臓病を患っていた義母は、五年ほど前、体調を崩して夜中に救急車のお世話で入院したのをきっかけに、すっかり弱くなってしまいました。以来、一週間に三回、人工透析に通院することになり、水分の制限や食事の栄養調整を医師からきびしく指導され、本人も家族も慣れないことなので、どう対処したらいいのか、病氣や老いに対してどう考えたらいいのかと、夜も寝られないような葛藤の毎日が続くことになったのです。

とくに人一倍「元氣印」で、自由に生きて幸せな生涯を送るはずだった義母にとって、九〇歳を目前にしての突然の挫折は思いも寄らない出来事だったのでしょう。家族に当たり散らすこともたびたびで、看病のため夜も眠ることができず、白々と夜が明けて床につき、夜明けからは主人と交代する毎日でした。

しかし、そんな義母にとって、「一番の幸せは、残された人生を自宅で送ってもらうことではないか」と考え、主人と覚悟を決めて、家族で世話を

することにしました。

しかし、家族による在宅介護は並大抵ではありません。私自身、からだ全体に皮膚病ができて一向に良くなる気配がないので、医師に診てもらったところ、寝不足と極度の過労が原因で、「とにかく睡眠をよくとりなさい」と言われました。でも、家に帰ると、食事、洗濯、義母の看病、通院の付き添いなど山のような家事が待っていて、とても眠るどころではありません。

とくに義母の場合、昼間は比較的よく眠っていて、深夜になると苦痛を訴えることが多く、家族はたまったものではありません。夜の十一時過ぎから朝の五時まで放送する「NHKラジオ深夜便」をつけながら、様子を見守ることがすっかり習慣になってしまいました。

もともと、そのお陰で夜中の十二時二十分に、九十四歳の生涯を閉じた義母の最期を看取ることができましたが、いまでも夜中になると「眠ってはいけない。お義母さんを見なくては…」と熟睡できないような状態が続いています。

人間だれしも六十歳を過ぎると、性格を変えることは困難です。わがままを抑えることがむずかしくなり、身体が思うように動かない自分にもどかしさを覚えるのでしょうか、家族が親身で献身的になるほど、かえっていらだちを覚えるようで

す。

病氣の老人を抱えている家庭で、よく「面倒をよくみる嫁にはきびしく、ろくに面倒をみない嫁にはやさしい」などという話がありますが、私自身の経験からも思い当たる節があります。ただし、それは本心ではなく、気持ちに余裕がなくなることから起こることです。できる限り楽しい話題を選び、笑顔で接し、心豊かな気分を持ってもらうことが大事だと思います。

義母のことをいろいろ書きましたが、肉親の介護の体験を、私自身の老後にどう活かしていけばよいか、これがこれからの私のテーマです。

この度、NPO総ぐるみ福祉の会が桑田さんの2階に「日限山荘」をオープンしましたが、うれしいことに、そこで義母の遺品である茶筆筒や座右、食器類を使って頂くことになりました。手すりの付いた階段で2階に上がると、義母の想い出がよみがえるのか、なんだかとても親しい知人の家に行くような気がします。

宮崎さんがヘルパーさんと一緒に、焼きそばを作ってください食べてましたが、あたたかく家庭的でたびたび足を運びたくなりました。

楽しい集いの場になるよう、できる限りお手伝いさせて頂きます。

「日限山荘」の成功をお祈りしています。